

令和7年度 「ちばっ子の学び変革」推進事業 研究状況報告書 <英語科>

長柄町立長柄中学校



目次

1 長柄中学校について

2 生徒の実態

3 研究主題

4 今年度の実践

5 成果と課題



1 長柄中学校について

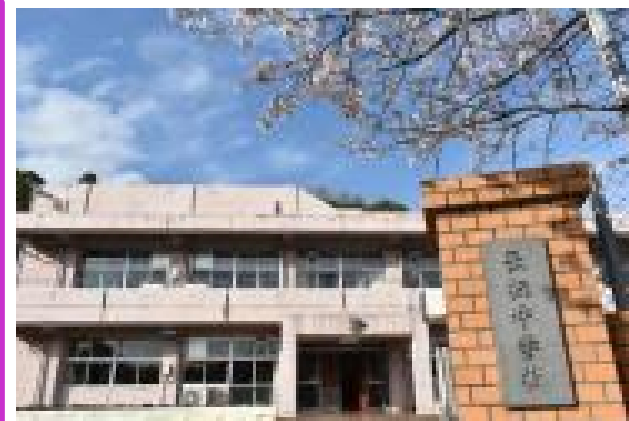
<学校教育目標>

「豊かな心をもち、主体的に学ぶ、たくましい生徒の育成」
～自分の未来を信じ、未来を切り開く～

<めざす生徒像>

1 心豊かな生徒 2 主体的に学ぶ生徒 3 たくましい生徒

- 全校生徒 101名
 - 1学年1クラス 27名 2学年2クラス 40名
 - 3学年1クラス 30名 特別支援2クラス4名
- 生徒たちは、温かな性格で協調性があり、男女間の仲もよい。
- 校訓「われ 常に 最善を尽くす」が浸透しており、学習活動の原動力になっている。



2 生徒の実態

(令和6年度全国学力・学習状況調査結果等から)

- (1) 英語科の授業に関する生徒質問調査において、肯定的な回答が全国平均よりも低い結果となっている。
- ・「原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていた」
 - ・「スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていた」
 - ・「自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていた」

自分の考えや気持ちなどを表現する場面を、段階的・継続的に設定

2 生徒の実態

(令和6年度全国学力・学習状況調査結果等から)

- (2) 国語、数学の調査結果では、
全体的に正答率が全国・県平均よりも下回っている。
問題形式の「記述式」は無解答率が高く、正答率が低い。

- ①基礎学力の定着…「ながLearnタイム」(タブレット端末での朝学習)等
- ②「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」で意識する視点
 - 「見いだす」…「何を問われているのか、問題を捉える力」
 - 「まとめあげる」…「思考の過程を振り返り、自分の言葉でまとめたり、表現したりする力」

3 研究主題

自ら学びに向かい、自分の考えを表現する生徒の育成

—「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して—

3 研究主題

仮説

- (1) ICT機器の活用等による教材や学習活動を研究することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実につながり、基礎学力の定着や主体的に学ぶ姿勢が身に付くであろう。
- (2) 「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を活用した授業改善を行い、「まとめあげる」場面を効果的に設定することで、学んだことを生かして自分の言葉で学習のまとめを書いたり、自分の考えを表現したりすることができるであろう。

4 今年度の実践

(1) 校内研修の充実：理論研修

①6月30日

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業の在り方

千葉県教育庁東上総教育事務所 指導主事 杉谷 真由美 先生



②8月5日

道徳教育の現状と課題～道徳科の授業づくりについて～

千葉県教育庁東上総教育事務所 指導主事 宮原 和歌子 先生



③8月21日

全国学力・学習状況調査分析と活用について

千葉県教育庁東上総教育事務所 指導主事 大島 梓 先生



4 今年度の実践

理論研修を通してわかったこと… **授業を変える**
授業改善

①明確な目標設定 & 振り返り 「まとめあげる」

②ICTの活用 ⇒ ICT = tool 「発信」 「共有」 「蓄積」

③teacher < facilitator

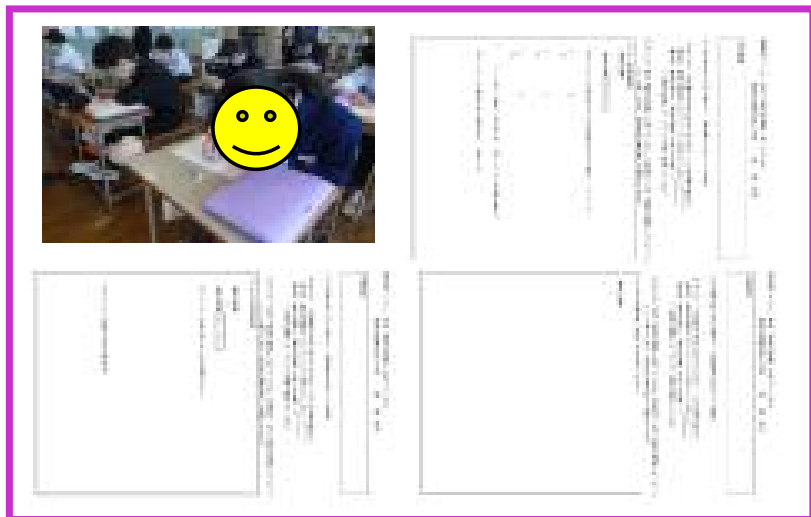
4 今年度の実践

(2) 全教科での取組：教科研究計画の見直し
授業実践・検証授業（要請訪問）



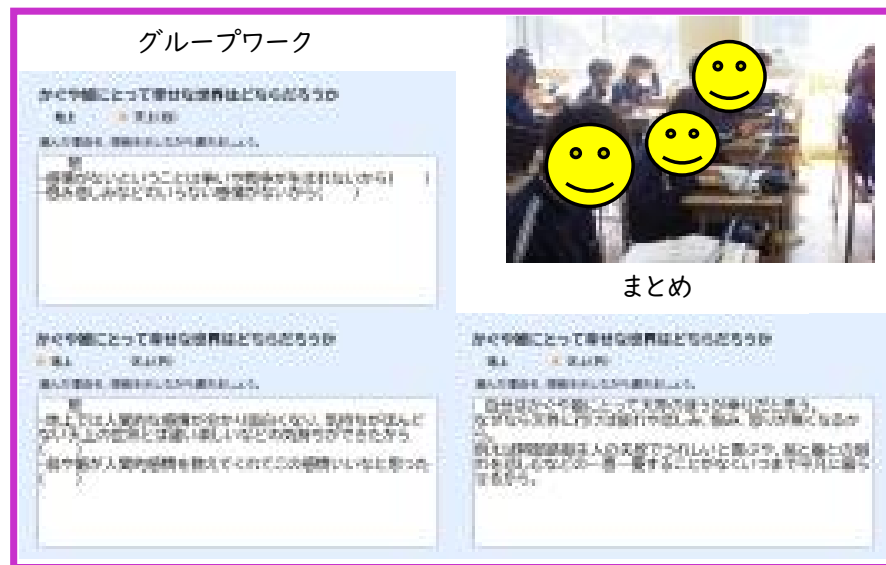
国語科

個別最適な学び



論説文や解説文の学習で、文章の要旨をまとめる活動を行った。まとめ方に応じて、ワークシートを複数用意し、生徒が選択して個々に学習を進める場面を設定した。教師は手順や時間を提示し、生徒同士の聞き合いも可とした。授業中は進捗の管理と助言を行った。

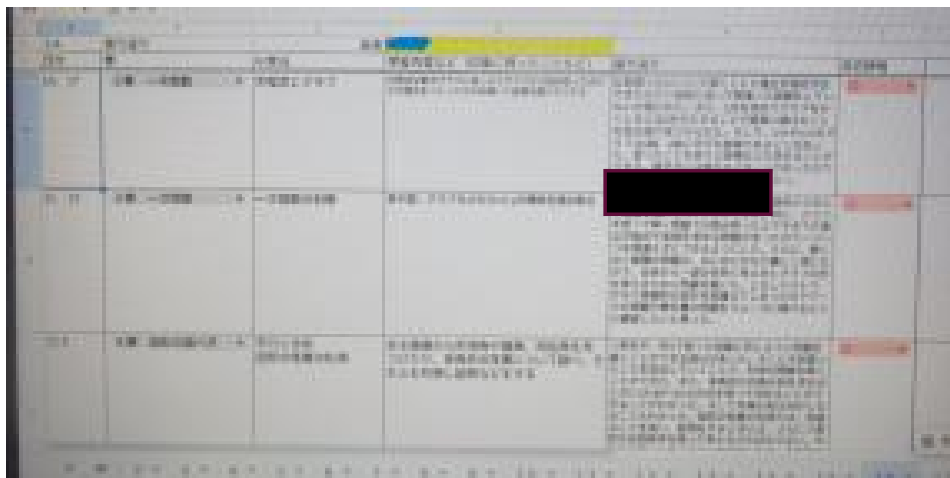
協働的な学び



思考整理ツールを用いて自分の意見を共有し、疑問点や共感した点を伝え合うことで、自分の意見を深めた。資料を基とした自分の考えを、交流を通して深め、意見を確かなものとしようとした。教師は個別に文章の書き出しや、根拠との結びつきについて助言をした。

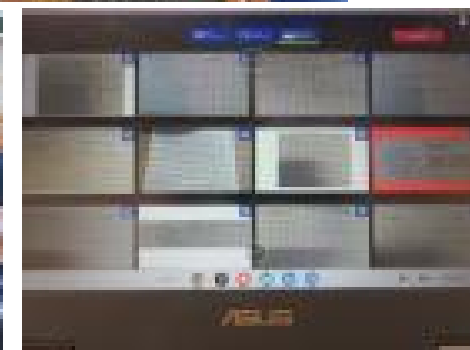
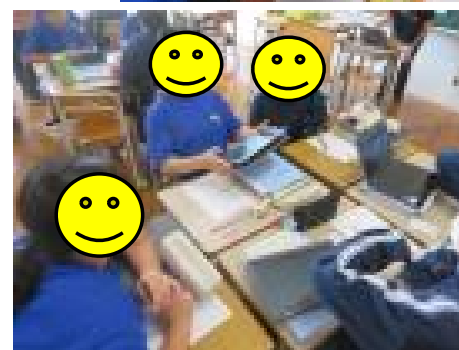
数学科

個別最適な学び



- 思考整理・情報共有ツールに振り返りを記入し、学びの調整をする。
- 問題演習の場面では、自分に合った課題を選択して取り組む。

協働的な学び



- お互いの考えを伝え合う。
- 情報共有ツールを利用して考えを共有し、比較・検討する。

理科

個別最適な学び



- 実験方法を学習させたAIとのやり取りを通して、実験方法の理解を深めた。
(指導の個別化)
- 難易度の異なるワークシートを複数用意し、自分の理解度に合わせて調節できるようにした。
(学習の個性化・自己調整力の向上)

協働的な学び



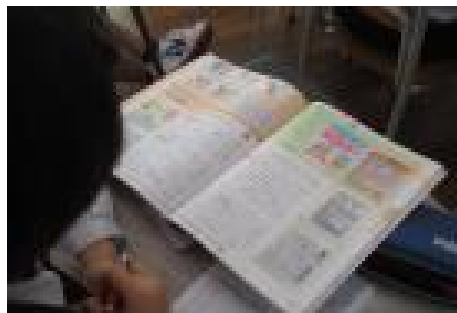
- 実験の結果を意見集約ツールで共有し、他の班の結果を参照することで実験の試行錯誤を促した。
- 考察の評価基準(ルーブリック)を事前に提示し、自己の記述と対照させた後、ペアによる相互評価を通して振り返りに客観的な視点を加えた。(表現力の向上)

社会科

個別最適な学び



- 自分での予想が難しい場合は、「ヒントカード」を活用し、予想を立てた。
- 自分の意見をまず整理し、話し合う時の準備をした。



- 「自分で取り組む」場面では、自分に適した教具を使った。

協働的な学び



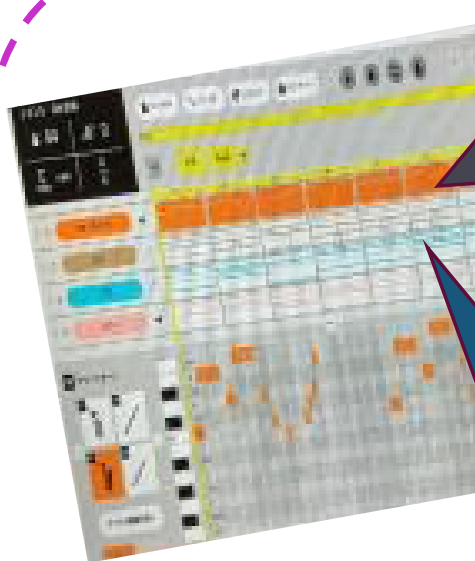
- 「広げ深める」場面では、4つの事例について、自分の意見を理由を添えて発表し、班でまとめた。

発言者	発言内容	発言日時	発言場所
1
2
3
4
5
6

- 各班に記録担当を決め、意見集約ツールを活用し、各班の話合いの結果を共有した。

音楽科

個別最適な学び



生徒：サンタの慌てるイメージに合うように跳躍を沢山使った。
教師：クリスマスのイメージを増すために鈴などの打楽器が入るとより素敵です 🎵

生徒：緊張している場面だからあえて音をコード進行から外して不協和音を用いた。試合をしている場面の表現が難しい。
教師：試合をしている場面は、テニスボールが飛び交う感じを出せるといいですね！順次と跳躍どちらが合うかな？

○創作活動では、音楽創作アプリを用いて個別の作曲をした。「カトカトーン(R) (C)2024 株式会社 教育芸術社

○授業後クラスルームを通して、授業のまとめとアドバイスして欲しいこと・分からないことを提出し、個別のフィードバックを行った。

協働的な学び

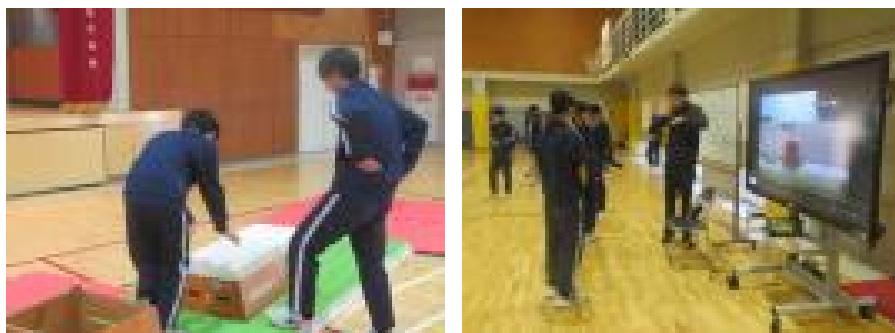


○歌詞から、情景を個人で考えた後、グループで共有した。

○各班でイメージした情景を可視化するために思考整理ツールを用いてイラストを描き、発表した。

保健体育科

個別最適な学び

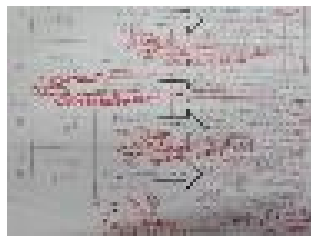


<課題に応じた場の工夫>

- 自己の課題に応じて練習場所を選択できるように場を設定した。電子黒板を使用できるようにし、技のポイントを動画で確認できるようにした。

<振り返りシートに文章記述によるフィードバック>

- 振り返りシートの記述内容や授業での見取りから適切な発問を文章でフィードバックし、授業開始時には「授業で何をすべきか(課題)」を明確にした。



協働的な学び



<ICT機器の活用>

- 保健分野では、情報共有ツールを活用し、話し合い活動を充実させた。

<グループ編成の工夫>

- 習熟度や課題によってグループを編成し、生徒間で教え合う活動を意図的に設けた。

4 今年度の実践

(3) 英語科における実践

- ・英語科教員 2名
- ・1学年1クラス、2学年2クラス、3学年1クラスのすべての授業に2名の教員(T1、T2)
- ・ALTは週4日勤務



4 今年度の実践

(3) 英語科における実践

- ① 全国学力・学習状況調査について
英語科に関する質問調査を実施
→ 経年変化を見取る

4 具体的な実践

(3) 英語科における実践

② タブレット端末を活用した学習活動

「オンライン英語教育プラットフォーム」

- ・音読課題（教科書音読練習）
- ・ライティング課題（英作文・文法添削）
- ・プレゼン課題
（英作文・文法添削・スピーキング練習・プレゼン録画）
- ・やり取り課題（AIキャラクターとの英会話・やり取り練習）

4 具体的な実践

・音読課題

ヘッドセットを使用する生徒もいる。



やりやすい!
一人で練習
できる!

点数がでるから、
点数で目標ができ
てやる気が出る!



発音の確認ができる。
わからない単語の正しい
発音がわかる。

課題の説明

5回以上、認識率80%を目指して練習しましょう。

- ・5回以上、認識率80%を目指す
- ・練習時間は5分間

マイページ

マイページ

マイページ

マイページ

マイページ

マイページ

マイページ

学習ログ

学習ログ

学習ログ

学習ログ

学習ログ

学習ログ

学習ログ

学習ログ

学習ログ

スピーキング練習ログ



ログに、練習の取組が記録され、
振り返りができる。

4 具体的な実践

・プレゼン練習



提出済作文

I worked at the Hospital.
I visited many places in the hospital.
I met a lot of interesting people.
I assisted in rehabilitation.
I did origami and drew pictures with an old woman.
The old woman said thank you.
I was very happy to hear that.
I learned about the hospital and the joy of being appreciated.

My Work Experience

提出済動画

提出済音声

提出済コメント

Very good reading
Clear and fluent words, good use of intonation
Clear speech, good speaking speed
Clear and long speech
Great work.

評価の振り返り

このスピーキング練習の振り返り

このスピーキング練習の振り返り

このスピーキング練習の振り返り

このスピーキング練習の振り返り

このスピーキング練習の振り返り

自分の考えた英文を、すぐに文法チェックできるから、英作文に自信がついた。

みんなの前で発表すると「失敗したくない」という思いが強くなってしまいうから…安心して取り組める。

4 具体的な実践

・やり取り課題

課題: 「want to」の練習をしてみましょう。相手からの質問にその文法を用いて回答したり、相手に質問をしてみましょう。



🔥 20語以上、単語を使ってみよう! 🔥 5ターン以上、会話をつづけよう!

相手がAIだから、色々な返事が返ってくるのが楽しい!

会話が続いて英語で話すことの練習になる。

どうやって質問に答えるか考えるのがおもしろい!



4 具体的な実践

(3) 英語科における実践

③ Backward Designの授業プラン

単元のはじめに、Goalを提示し、学習の見通しをもたせる

Program 6: High-Tech Nature		
Goals		
Scenes 大きさや程度などを比べて伝え合う。	Part 1, 2, 3 Review & Retell 生物をヒントにして作られたものについて理解し、伝える。	Action 自分に取り組んでいる省エネ対策について伝える。

4 具体的な実践

③ Backward Designの授業プラン

Scenes: 言語材料の振り返り

Part: 教科書本文の振り返り
KWL Chartの活用

Program 6: High-Tech Nature

できること	聞いてわかる	読んでわかる	やり取りできる	発表できる	書ける
2つのものを比べた内容について	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C
いちばん程度の高いものについて	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C
同じ程度のを比べた内容について	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C

Program 6: High-Tech Nature

Class: 1.1

K	W	L
What I Know	What I Want to know	What I Learned
<ul style="list-style-type: none"> What is the main idea of the text? What are the key points? 	<ul style="list-style-type: none"> What are the main points of the text? What are the key points of the text? What are the key points of the text? What are the key points of the text? 	<ul style="list-style-type: none"> What are the main points of the text? What are the key points of the text? What are the key points of the text? What are the key points of the text?

Reflection
 How did you feel about the text? What did you learn from it? How did you feel about the text? What did you learn from it?

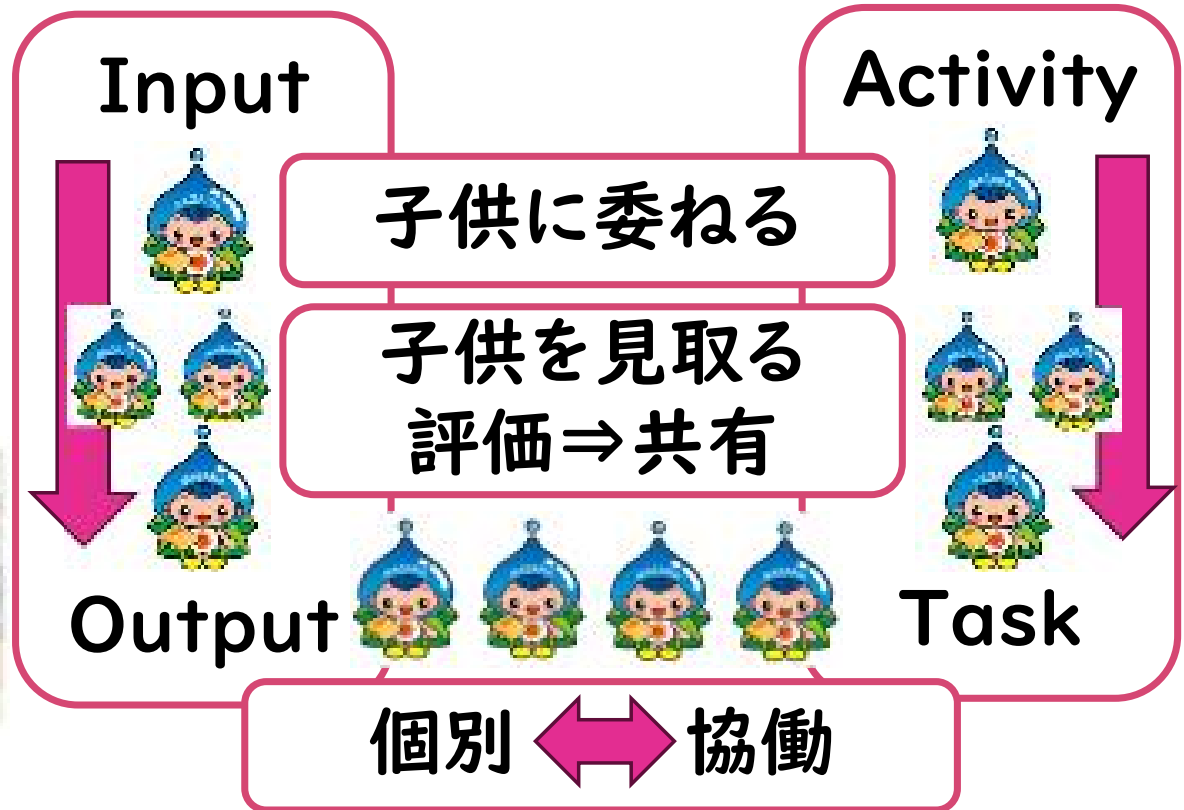
4 具体的な実践

③ Backward Designの授業プラン

個別: 

ペア: 

グループ: 



4 具体的な実践

③ Backward Designの授業プラン

Task : Performance Test

ルーブリックを作成し、生徒に示す
目的、場面、状況、条件を具体的に!

Inputした言語材料や教科書本文
で使われていた表現

自分で考え、判断してOutputする

Evaluation Sheet *Performance Test*

Topic: My Work Experience

目的: ALTのLouise先生に自分の職場体験について知ってもらうために、英語でスピーチをする。

条件: 1. 3つの内容を含める

①Where did you work? ②What did you do? ③What did you learn?

2. 制限時間は1分

項目	評価	評価基準
Contents	A	条件1の3つの内容を、くわしく述べている。
	B	条件1の3つの内容を述べている。
	C	条件1の3つの内容を、述べていないかわかりにくい。
Fluency	A	スピーチがはじめから終わりまでスムーズにできた。
	B	スピーチがときどき途切れることがあった。
	C	スピーチが途切れることが多く、時間がかかった。
Delivery	A	アイコンタクトがしっかりでき、十分大きな声でスピーチできた。
	B	アイコンタクトが時々でき、何を話しているかは聞き取れる声の大きさだった。
	C	アイコンタクトがあまりなく、声が小さかった。

4 具体的な実践

③ Backward Designの授業プラン 子供を見取る 評価⇒共有

Speech: My Work Experience

Where did you work?	[Redacted]	I worked at [Redacted]
What did you do?	<p>= made cookies = ふくろづめ 接客 served customers = そうじ cleaned workshop 掃除</p>	<p>I made cookies. I packed a lot of sweets. It was difficult because I had to do it quickly and carefully. I also served customers. I cleaned the work shop.</p>
What did you learn?	<p>I learned the importance of using my time efficiently.</p>	<p>I learned the importance of using my time efficiently.</p>

<英作文での子供たちの様子>

日本語をそのまま英語にしようとする。

辞書を使って単語を調べる。

「ふくろづめ」、「接客」、「そうじ」 → 名詞

「私は、～しました。」の文は作れない。

<facilitatorとして>

教師: 「文にするためには、『主語』+…」

と助言すると、子供たちは気づく!

生徒: 「動詞!」

「ふくろづめ」→「ふくろづめをする」

「接客」→「接客をする」

「そうじ」→「そうじをする」

5 成果と課題

○成果

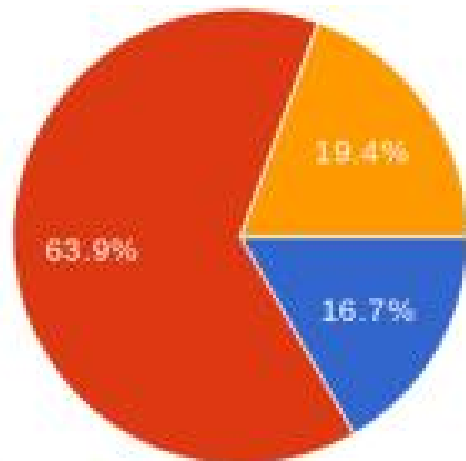
- ・ 全職員がICT機器の活用等による教材や学習活動を研究し、授業改善に取り組んだ。
- ・ T2やALTのおかげで、生徒一人一人の発話量が増え、生徒へのフィードバックもその場でできた。
- ・ Backward Designを意識した授業を実践することで、生徒が自分の考えを表現する場面を意図的に設定することができ、表現力の育成につながった。

5 成果と課題

- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

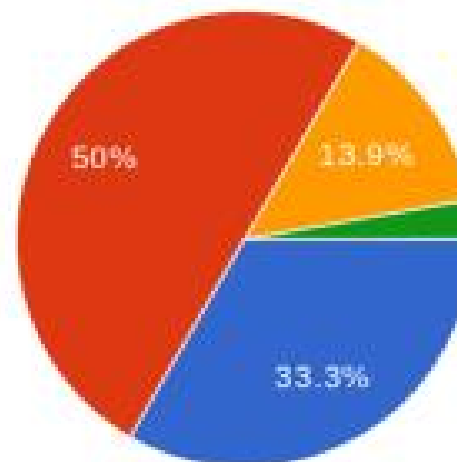
○成果

オンライン英語教育プラットフォームを使うことによって、目標や課題の達成に向けて、地道に自分で取り組むことができたと思いますか



80%以上が肯定的

オンライン英語教育プラットフォームを使った英語の勉強は必要だと思いますか



83%以上が肯定的

- ・ オンライン英語教育プラットフォームの活用により、何をどのように練習したらよいか明確に、自ら粘り強く取り組む姿が見られた。

5 成果と課題

●課題～次年度の研究の方向性について～

- ・ 明確な目標設定による授業実践
→ 単元名、単元目標、単元の流れ、手立て、評価等を
一覧で示した「単元マップ」の作成
- ・ 学びの質や表現力向上のベースになる基礎学力の定着
→ 「ながLearnタイム」の充実、家庭学習の充実
- ・ 時間確保や時間配分の再検討
→ 「オンライン英語教育プラットフォーム」の継続
Task(Performance Test等)を計画的に実施